焼岳の火山活動解説資料（平成 25 年 12 月）

気 象 庁 地 震 火 山 部
火山監視・情報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
平成 23 年３月 31 日に噴火予報（噴火警戒レベル１、平常）を発表しました。その後、予報警報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・噴気など表面現象の状況（図１、図２）

北陸地方整備局が設置している焼岳北カメラ（焼岳の北北西約４km）による観測では、北峰付近の噴気孔からの噴気の高さは０～100mで経過しました。また、同局設置の焼岳南西斜面カメラ（焼岳の西南西約 2.5km）による観測では、岩坪谷上部の噴気孔からの噴気の高さは 10～100mで経過しました。その他の地域で噴気は認められませんでした。

・地震活動（図３－①、図４、図５）

焼岳を震源とする火山性地震の発生回数は少ない状態で、地震活動は静穏に経過しました。
火山性微動は観測されませんでした。

・地殻変動の状況（図３－②③④）

GPS 連続観測では、火山活動によるとみられる変動は認められませんでした。

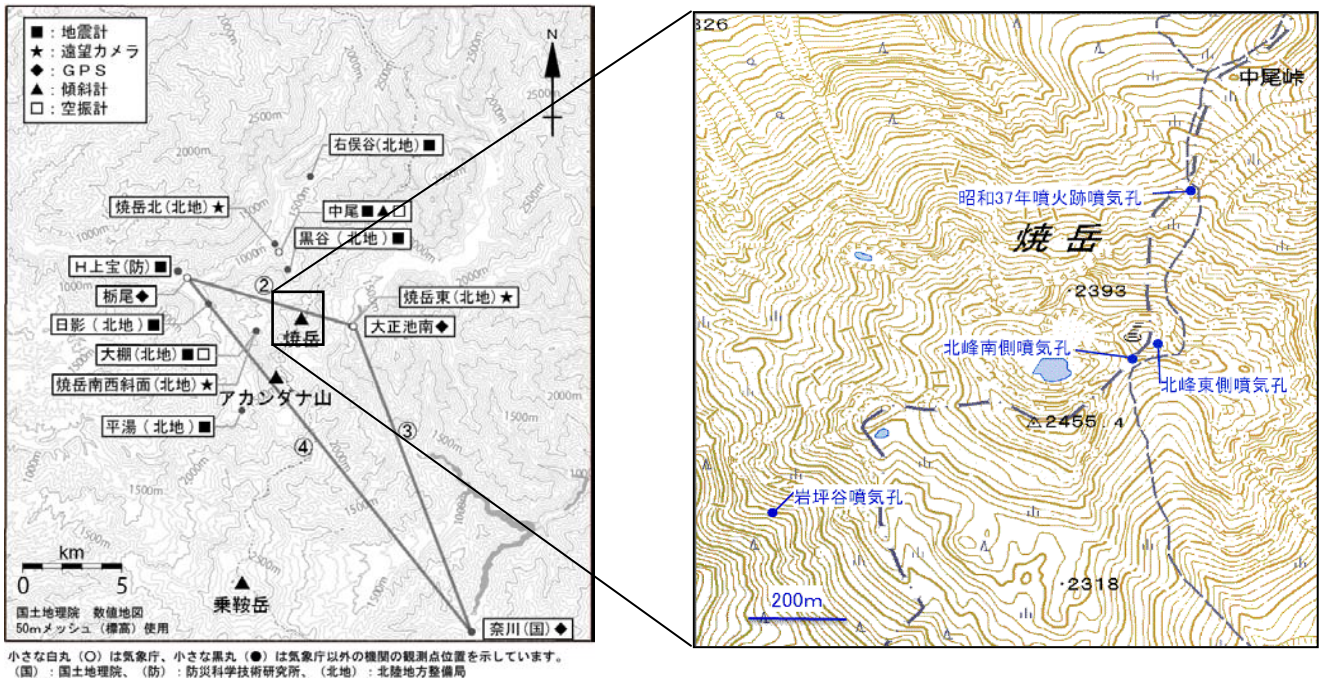

図１　焼岳　観測点配置及び噴気孔位置
GPS 基線②～④は図３の②～④に対応しています。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ（http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html）でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 26 年１月分）は平成 26 年２月 10 日に発表する予定です。

この資料は気象庁のほか、北陸地方整備局、国土地理院、京都大学、名古屋大学、東京大学及び独立行政法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『2 万 5 千分１地形図』『数値地図 25000（行政界・海岸線）』『数値地図 50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号：平 23 情使、第 467 号）。

図２　焼岳　山頂部及び南西斜面の状況
（左図：12 月 25 日 焼岳北カメラ、右図：12 月 25 日 焼岳南西斜面カメラ）

【計数基準の変遷】開　始　2010 年８月２日～2010 年９月 21 日　中尾振幅 0.5μm/s 以上、S－P２秒以内
変更①　2010 年９月 22 日～2011 年３月 10 日　中尾振幅 0.5μm/s 以上、S－P１秒以内
変更②　2011 年３月 11 日～2013 年９月 30 日　中尾振幅 3.0μm/s 以上、S－P１秒以内
変更②　2013 年 10 月１日～　中尾振幅 2.0μm/s 以上、S－P１秒以内

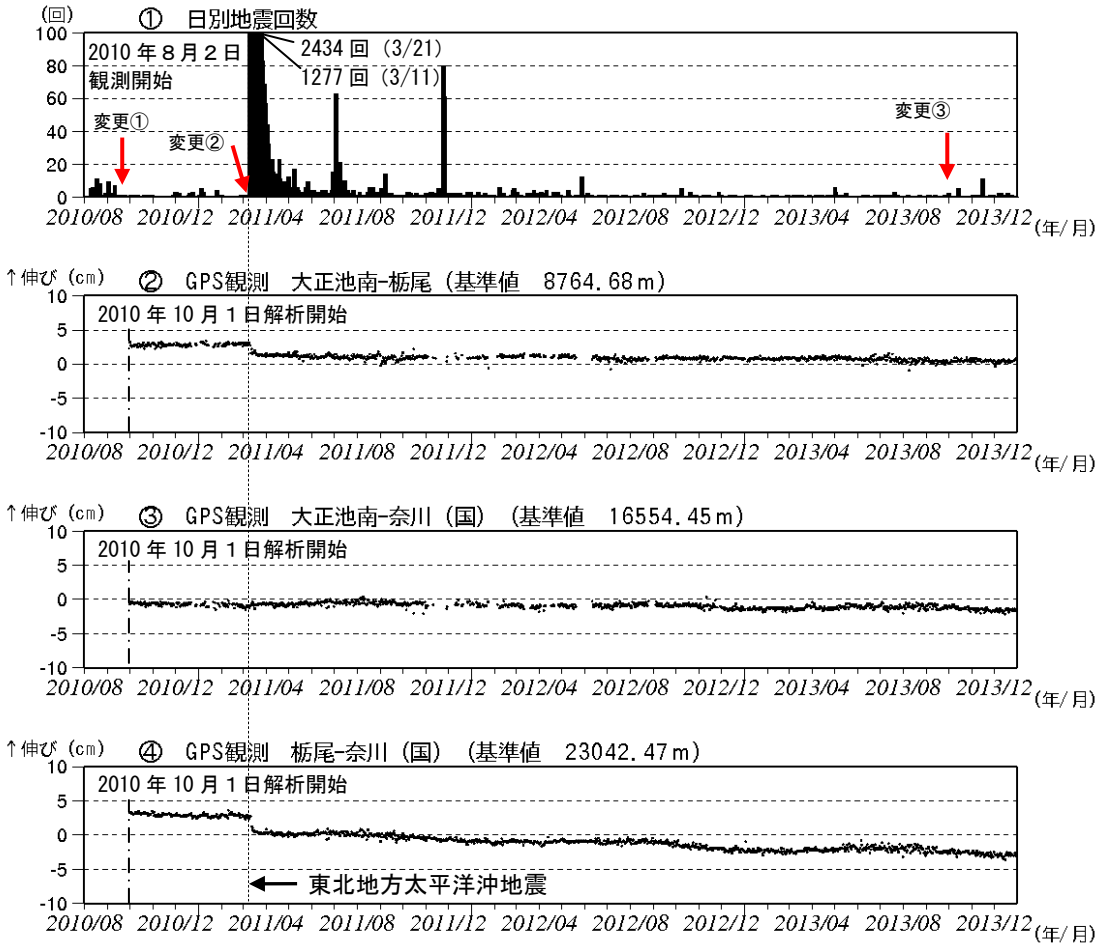

図３　焼岳　火山活動経過図（2010年８月２日～2013年12月31日）

①焼岳周辺の日別地震回数
2011 年３月 11 日に発生した東北地方太平洋沖地震以降、焼岳周辺で地震活動が活発な状況となりましたが、その後、地震活動は低下しました。

②③④ GPS 連続観測による基線長変化　（国）：国土地理院
2011 年３月 11 日に発生した東北地方太平洋沖地震の影響により、データに飛びがみられます。
②③④ は図１の②③④に対応しています。グラフの空白部分は欠測を示します。

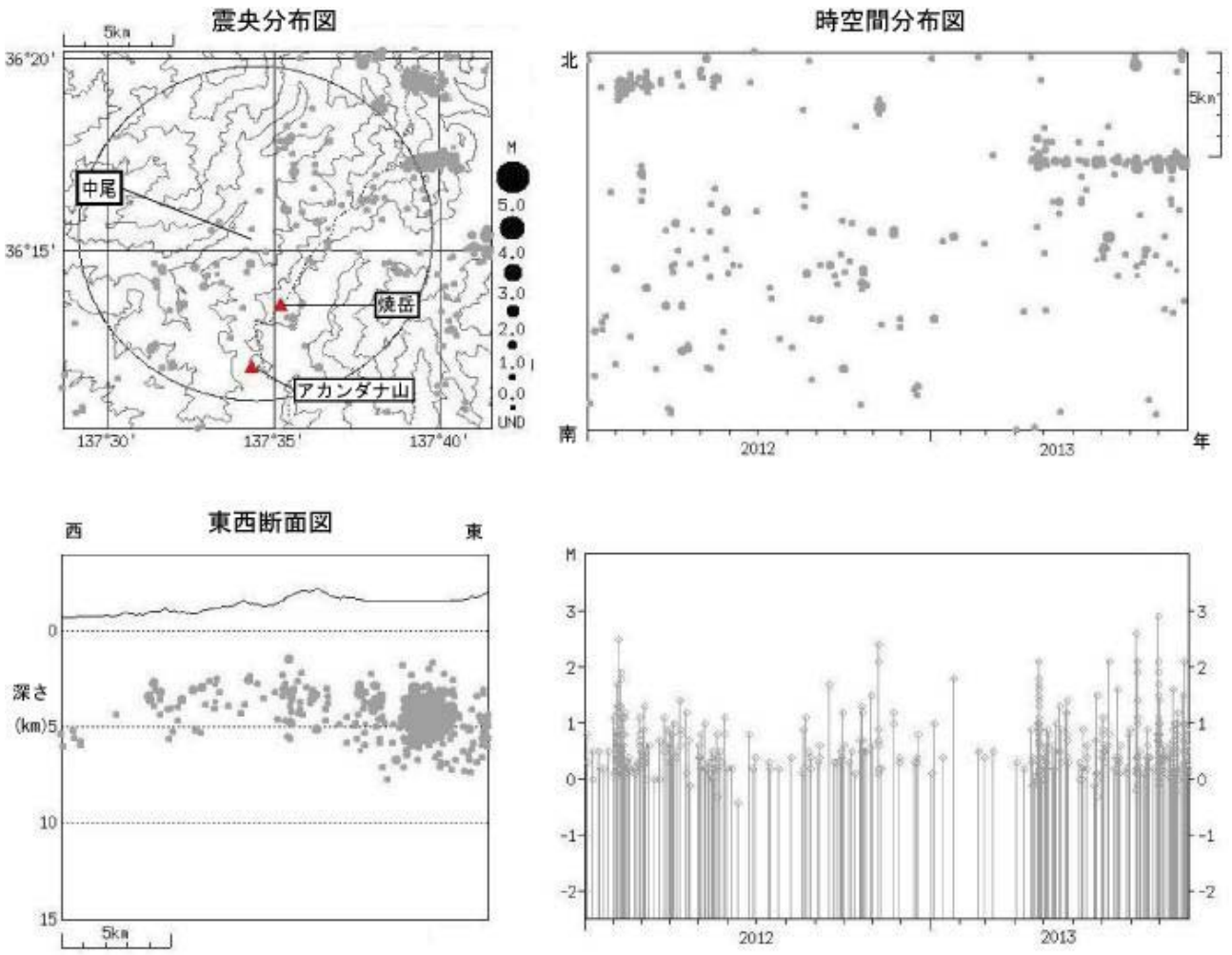

図４　焼岳　広域地震観測網による焼岳付近の地震活動（2012 年１月～2013 年９月）

●：2012 年１月１日～2012 年９月 30 日

図中の円は図３-①の計数対象地震（中尾で S-P 時間１秒以内）のおよその範囲を示します。

M（マグニチュード）は地震の規模を表します。

計数対象の火山性地震は少ない状態で経過しました。

図中の震源要素は一部暫定値で、後日変更することがあります。

2013 年 10 月１日から、広域地震観測網による震源分布図から、焼岳の地震観測点による震源分布図に表示を変更しました（図５）。

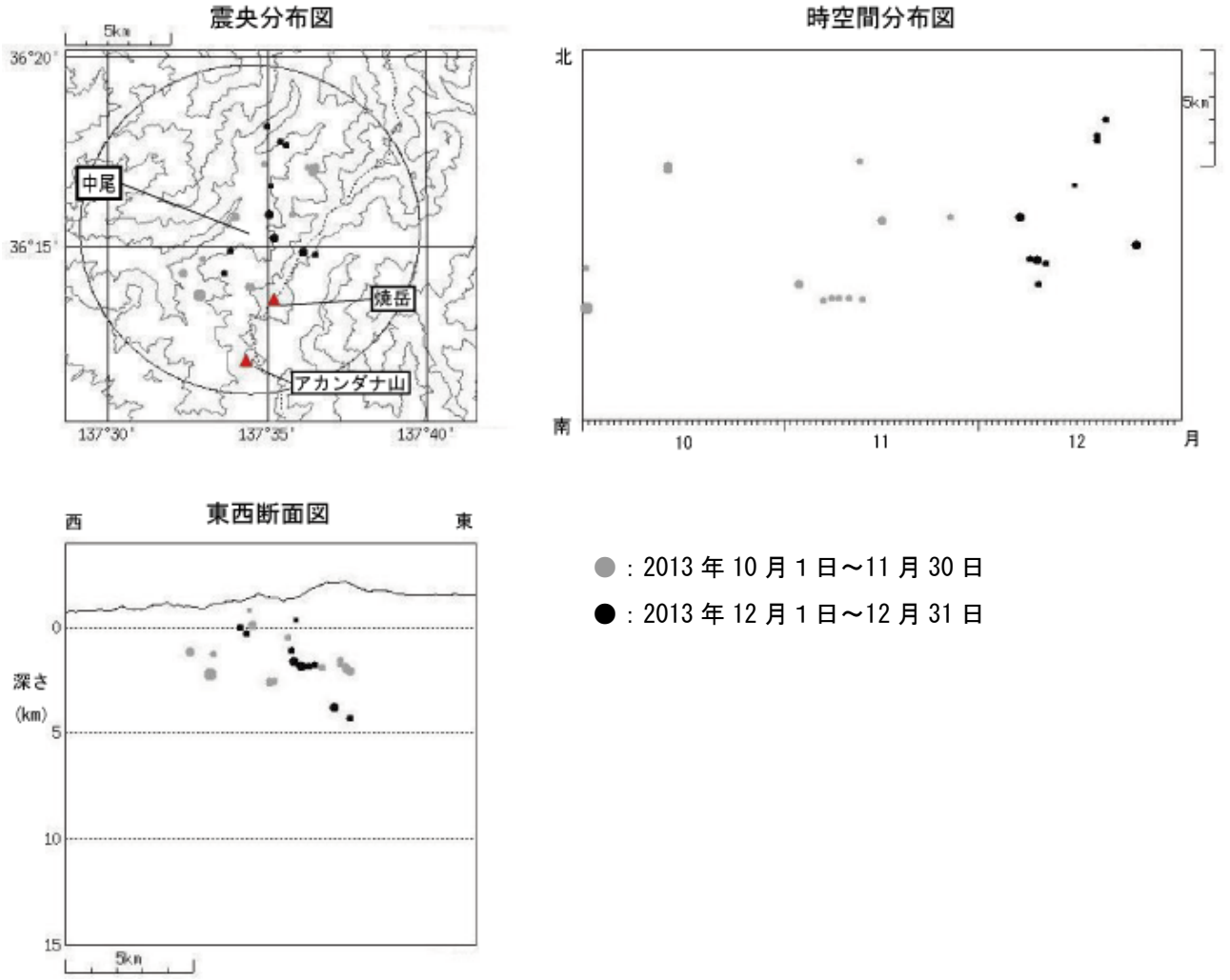

図５　焼岳　震源分布図（2013 年 10 月 1 日～12 月 31 日）

2013 年 10 月 1 日から、広域地震観測網による震源分布図を、焼岳の地震観測点による震源分布図に表示を変更しました。

震央分布図中の円は図３－①の計数対象地震（中尾でＳ－Ｐ時間１秒以内）のおよその範囲を示します。